

## 令和元年東日本台風による河川関係の浸水に関する住民説明会

日 時 令和2年8月25日(火) 26日(水) 19時 開始  
場 所 川崎市総合教育センター (高津区溝口6-9-3)

### 次 第

1. 開会のあいさつ 建設緑政局長
2. 職員紹介
3. 検証結果等の説明 建設緑政局道路河川整備部河川課長  
高津区役所道路公園センター整備課長
4. 質疑応答
5. 閉会のあいさつ 高津区役所道路公園センター所長

---

配布資料：「令和元年東日本台風による河川関係の浸水被害に関する住民説明会」(A3判9枚)  
「御質問・御意見 記入用紙」(A4判1枚)

#### (問い合わせ先)

●事業全般について

川崎市建設緑政局道路河川整備部河川課 TEL 044-200-2906  
FAX 044-200-7703

●管理、維持・補修について

高津区役所道路公園センター整備課 TEL 044-833-1221  
FAX 044-833-2498

# 令和元年東日本台風による河川関係の浸水に関する住民説明会

川崎市建設緑政局  
高津区役所道路公園センター

# 1. 川崎市の治水事業の沿革

## 川崎市の治水事業の沿革

市内を流れる一級河川は、流域の都市化に伴う雨水流出量の増大で治水安全度が低下しているため、早急に整備が必要になってきた。そのため、昭和46年から国、県の補助制度の適用を受け、改修事業の促進を図っている。近年は、局所的な集中豪雨の多発に伴い、浸水被害の増大が想定されている。本市では、時間雨量50mm（3年に1回程度）の降雨に対応できる河川改修を進めており、総合的な治水・浸水対策として、五反田川放水路などの河川整備のほか雨水流出抑制施設の設置指導など、災害に備えた川づくりに向けて取組を進めている。



五反田川放水路



整備後の平瀬川



### (2) 平瀬川における取組

- ・ 従前の平瀬川は上之橋付近で東に折れ、溝口を経て多摩川に流入していたが、たびたび豪雨時に氾濫を起こしていたため、昭和15年から昭和20年にかけて、県営多摩川右岸農業水利改良事業の一環として、多摩川へ全量カットするトンネル（流下能力30m<sup>3</sup>/s）が築造された。また、昭和45年度に80m<sup>3</sup>/sの流下能力をもつトンネルを在来トンネルの左岸側に新設した。
- ・ 現在の平瀬川は、時間雨量50mmの降雨に対応した河道の整備が完了しており、多摩川合流部においては、時間雨量90mm相当※の降雨に対応できる河道整備が完成している。
- ※上流域で現在施工中である五反田川放水路事業等の完成後



平瀬川の氾濫(高津区溝ノ口/昭和初期)



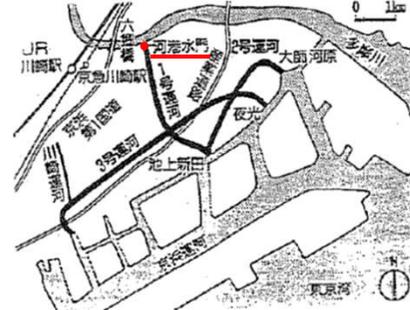
平瀬川の氾濫(高津区上作延/昭和51年)

### (3) 三沢川における取組

- ・ 従前の流路は現在の旧三沢川であったが、洪水時に溢水による浸水被害が度々発生したため、県営三沢川沿岸排水改良事業によりバイパスが建設され、昭和22年に完成した。
- ・ 多摩ニュータウン開発に伴い稲城地区の排水と三沢川の流量調節機能を兼ねた分水路の設置が方向づけられ、昭和59年に完成した。
- ・ 神奈川県管理区間について、昭和45年～平成5年にかけて護岸工・河床工・橋梁架替を行い、時間雨量50mmの降雨に対応した河道の整備が完了している。



河港水門



都市計画運河計画のルート図

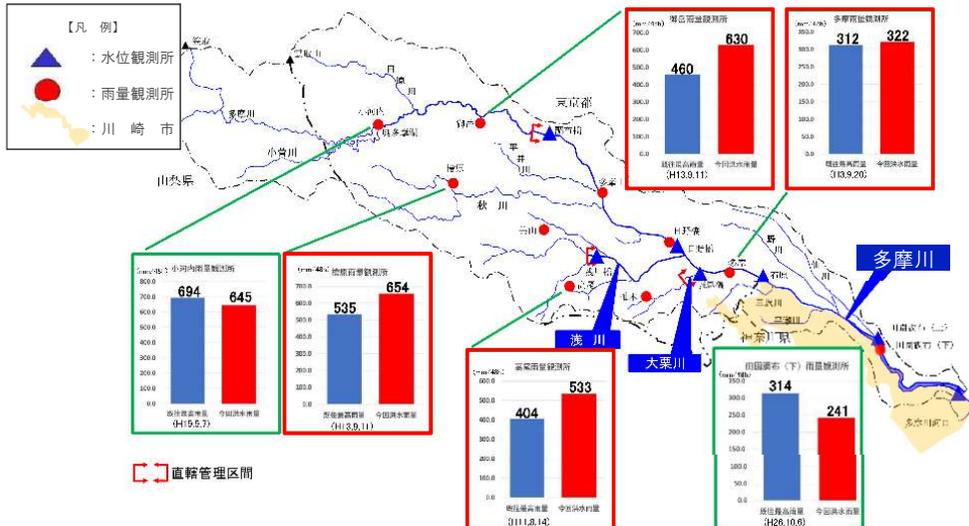
### (1) 河港水門について

- ・ 大正時代に構想された大規模な運河計画に伴い、当時の多摩川改修事務所長であった内務省土木技師金森誠之により設計され、昭和3年に完成した。後に、社会情勢の変化などにより運河計画は昭和18年に廃止となった。
- ・ 現在は、220m開削された運河も埋め立てられ、船溜まりが残る。近年まで、砂利の陸揚げ施設として砂利運搬船が出入りしていた。
- ・ かつての大運河計画の存在を物語る希少な歴史的遺産として、また、その優れた意匠から、平成10年度に国の登録有形文化財に登録された。

## 2. 降雨水位等の基礎情報

### (1) 令和元年東日本台風の概要と多摩川流域の状況

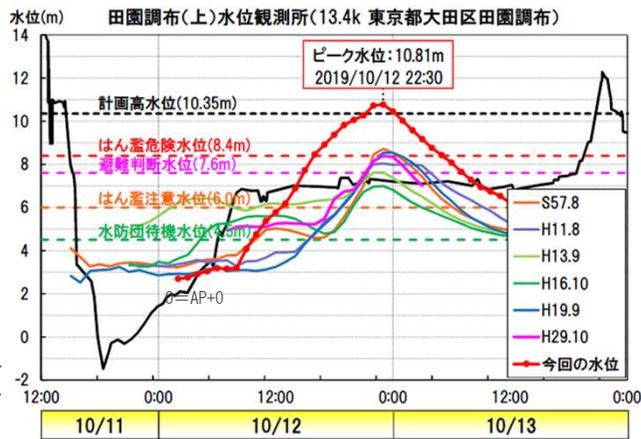
10月11日(金)から令和元年東日本台風の接近に伴い、多摩川流域全体の広範囲に強い雨域がかかり、山梨県、東京都、神奈川県を中心に大雨となった。多摩川流域の檜原雨量観測所、御岳雨量観測所、高尾雨量観測所、多摩雨量観測所においては、観測を開始してから過去最高の雨量を観測した。



【多摩川緊急治水対策プロジェクト(令和2年1月31日公表)から抜粋】

### (2) 多摩川の水位状況等

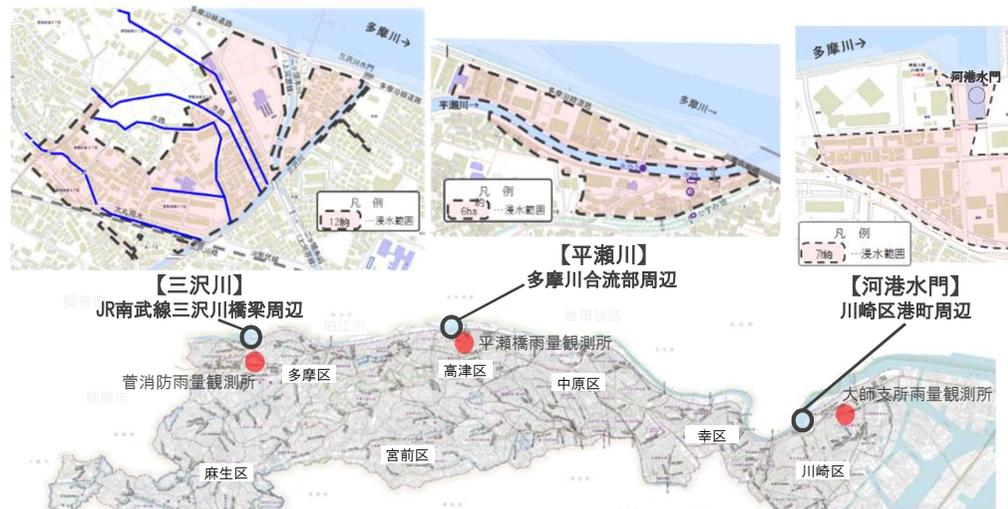
多摩川では、本川下流部の田園調布(上)水位観測所(大田区)と石原水位観測所(調布市)において計画高水位を超過した。田園調布(上)は、10月12日22時30分に既往最高の水位10.81mを記録した。  
 本川上流部においては、調布橋で氾濫危険水位を超過、日野橋では氾濫注意水位を超過、多摩川河口では、水防団待機水位を超過した。  
 ピーク流量は石原で約5,000m<sup>3</sup>/s、田園調布(下)で約6,010m<sup>3</sup>/sであり、対象流量(戦後最大流量)を超過していた。



出典【出水概要(第4報)/京浜河川事務所】

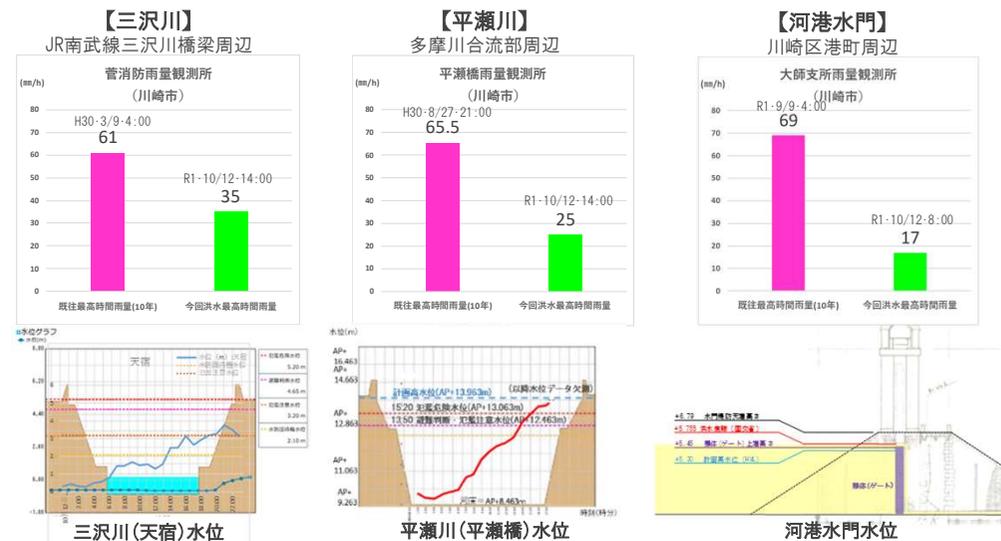
### (3) 被害の概要

川崎市では、以下の3地域において河川や水路の水位が上昇し、合計25haの浸水被害が発生した。



### (4) 浸水地域の状況

川崎市内で浸水した3地域における最高時間雨量は、既往時間最高雨量を下回る雨量であった。市内河川では、平瀬川の平瀬橋水位観測所(高津区)において氾濫危険水位の超過を確認したほか、嶋田人道橋水位観測所(宮前区)とあゆみ橋水位観測所(宮前区)において避難判断水位を超過した。



### (5) 浸水地域の河川、水路、水門の諸元

- 【多摩川】 流路延長=64.3km(直轄管理区間)、これまで戦後最大規模の洪水流量を対象流量(4,500m<sup>3</sup>/s(石原)、4,600m<sup>3</sup>/s(田園調布下))として安全に流すよう河川整備計画に位置づけている。
- 【三沢川】 流路延長=9.9km、流域面積=16.9km<sup>2</sup>、降雨強度=50mm/h改修済となっている。三沢川に接続する水路は、下水の雨水幹線に位置づけられており降雨強度=52mm/hに対応している。
- 【平瀬川】 流路延長=7.56km、流域面積=9.32km<sup>2</sup>、降雨強度=50mm/h改修済となっている。
- 【河港水門】 大正末期に計画された運河計画に併せて、昭和3年に完成した。扉体の高さは、多摩川の計画高水位を満足しているが、余裕高を見込んだ堤防高さは下回っている。

### 3. 平瀬川（多摩川合流部周辺）

#### (1) 浸水状況の検証結果

高さ測量結果や水位データ、地域ヒアリング・アンケート結果を用いて浸水状況を検証した。

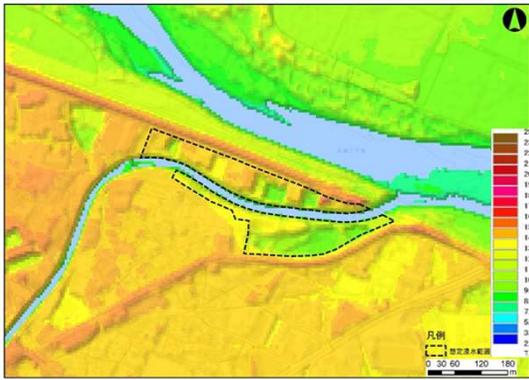
##### ア 浸水経路

当該地の浸水の経路は、以下のとおりである。

- ①管理用通路水抜き穴からの浸水
- ②東久地橋桁下からの浸水
- ③平瀬川の堤防からの越水

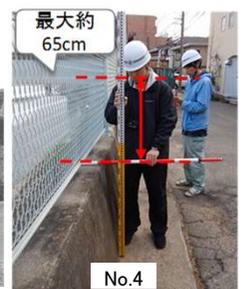
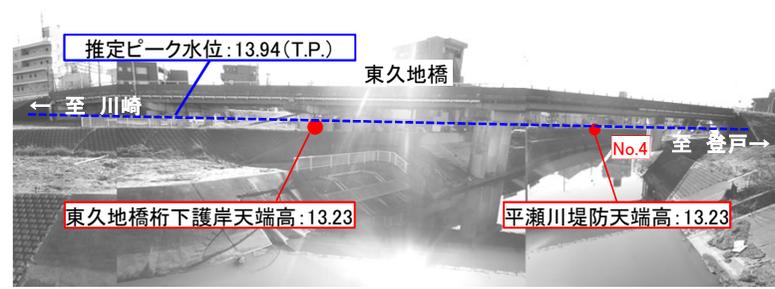
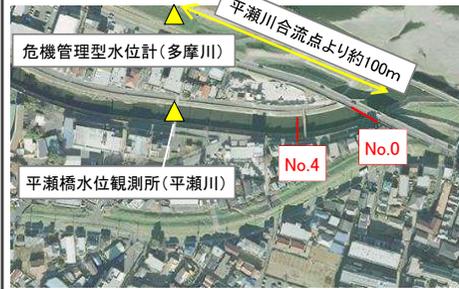
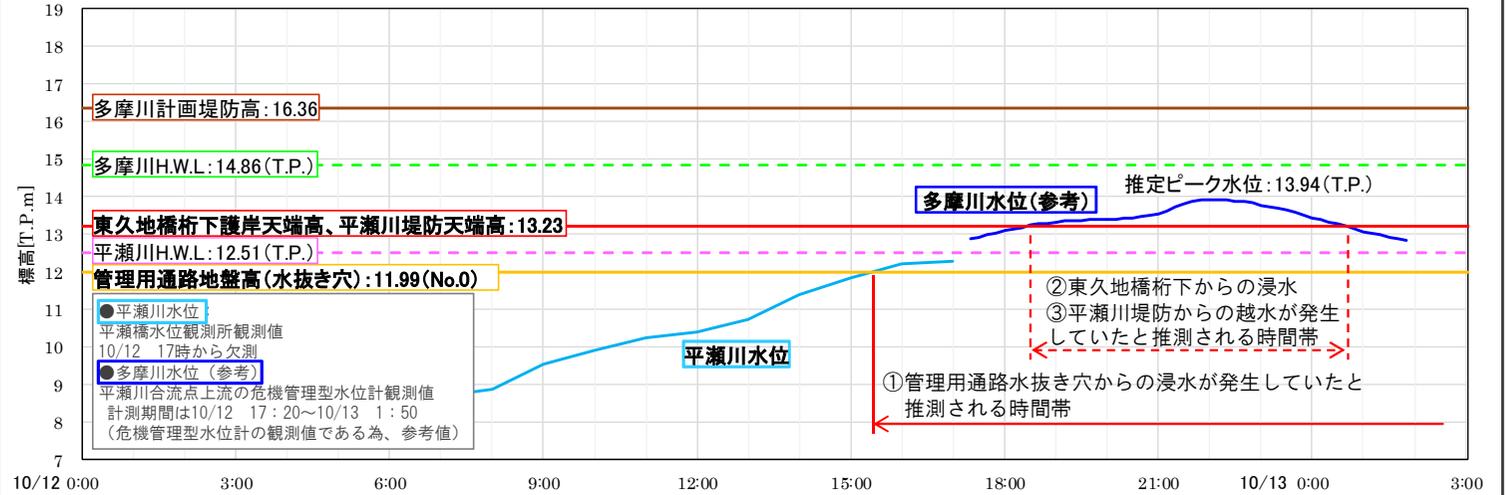


段彩陰影図



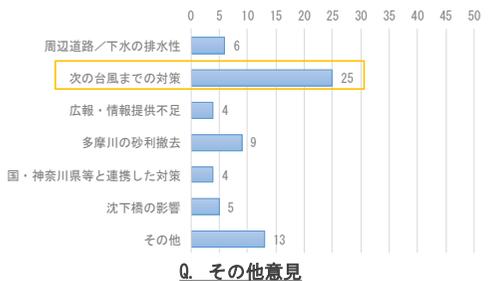
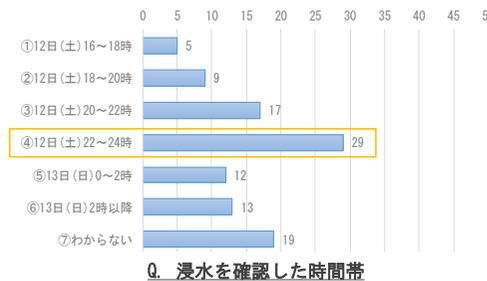
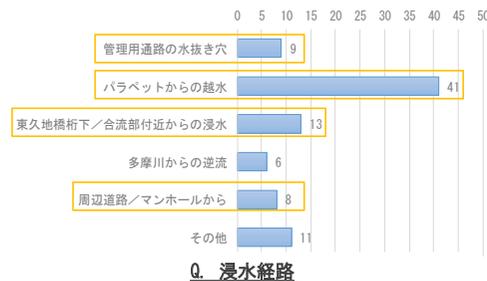
##### イ 高さ測量結果や水位データによる検証

平瀬川（多摩川合流部）における多摩川水位（約100m上流の危機管理型水位計の参考値）と平瀬川護岸部の測量調査により、12日15時頃に①管理用通路水抜き穴からの浸水が発生した。18時頃から13日0時頃まで②東久地橋桁下からの浸水と、③平瀬川堤防からの越水が同時帯に発生していたことが推測される。（平瀬川の水位計は、17時から欠測している。）



##### ウ 地域ヒアリング・アンケート結果（抜粋）による検証

浸水エリア地域に対するヒアリングアンケート調査(N=104)の結果、Q. 浸水経路は「パラペットからの越水」「東久地橋桁下/合流部付近からの浸水」「管理用通路の水抜き穴」「周辺道路/マンホールから」との回答が多く、Q. 浸水を確認した時間帯については、「22～24時」との回答が多かった。また、Q. その他意見として、「次の台風までの対策」との回答が多い。



### 3. 平瀬川（多摩川合流部周辺）

#### (2) 短期・中期対策

##### ア フラップゲートの設置

- ・対策実施者：川崎市
- ・進捗状況：（対策済）令和2年3月

【対策内容】  
市が管理する33箇所の水抜き穴にフラップゲートを設置した。

※民有地から接続されている22箇所の排水管については、所有者及び構造等の調査を完了しており、各々の状況に応じた対策の実施を所有者に対し依頼した。



フラップゲート

##### イ 大型土のう等の設置

- ・対策実施者：国
- ・進捗状況：（対策済）令和2年8月

【対策内容】  
暫定的な対策として、東久地橋桁下に、遮水シートを併用した大型土のうを設置した。



大型土のう

##### ウ パラペット護岸の改良

- ・対策実施者：川崎市
- ・進捗状況：（対策済）①仮設板設置 令和2年8月  
（施工中）②アクリル板設置 令和2年度末まで

【対策内容】  
①台風シーズンまでの暫定対策として、仮設板の設置を行った。  
②既存パラペットを補強し、アクリル板を設置する。



仮設板（設置状況）

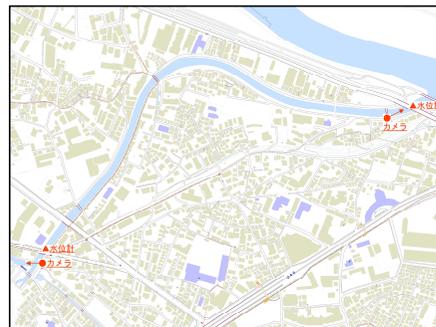


アクリル板（設置事例）

##### エ 水位計、カメラの新設・更新

- ・対策実施者：川崎市（水位計、カメラ）
- ・進捗状況：（対策済）①既存水位計の更新 令和元年度  
（施工中）②水位計及びカメラ設置 令和2年8月末まで

【対策内容】  
①既存の水位計については、補助電源を有する機器に更新を行った。  
②平瀬川-多摩川合流点、ニヶ領本川-平瀬川合流点への水位計とカメラを設置する。  
新設したカメラの画像は、一般に公開する。（令和2年9月予定）  
※神奈川県が既存のカメラを夜間対応カメラ（視認性向上）に更新する。（令和2年度中）



水位計・カメラ設置位置



カメラ画像のイメージ  
（平瀬川-多摩川合流点）

##### オ 被害最小化の取組

- ・対策実施者：川崎市
- ・進捗状況：（対策済）①移動式ポンプ配備 令和元年度  
②移動式ポンプ増設 令和元年度  
③土のうステーション設置 令和2年6月

【対策内容】  
①移動式ポンプ2機を配備した。  
②地盤の低い地域の内水処理能力強化のため、移動式ポンプを1機増設した。  
③土のうステーションをかすみ堤に設置した。



土のうステーション（かすみ堤）



移動式ポンプ機

### 3. 平瀬川（多摩川合流部周辺）

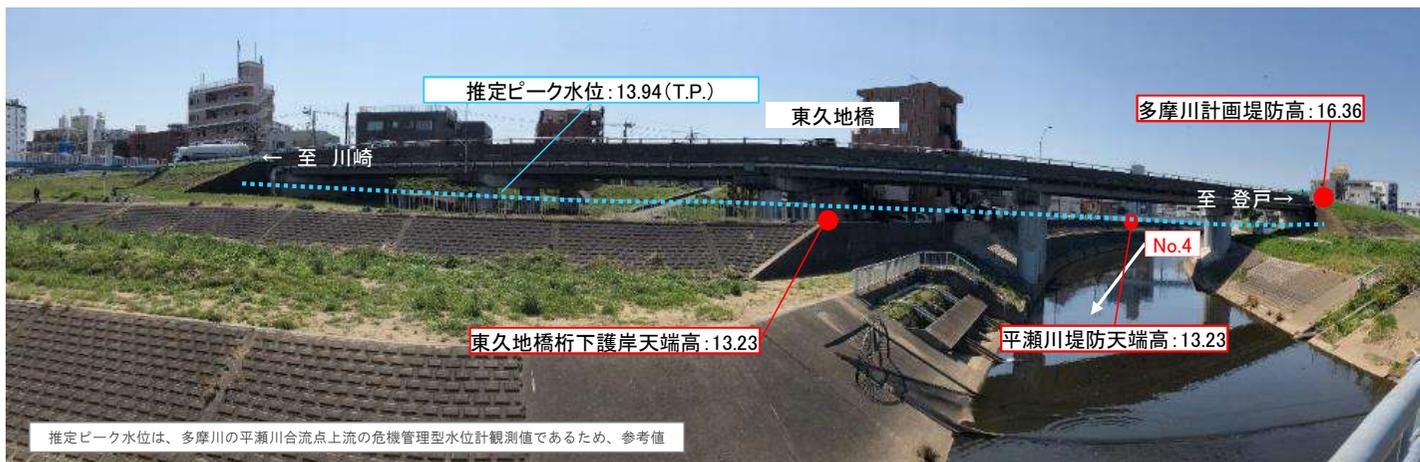
#### (3) 中長期対策

##### ア. 平瀬川（多摩川合流部周辺）の現状

平瀬川は、県が管理する一級河川であり、時間雨量50ミリの降雨に対応した河道の整備が完了しており、川崎市が改修工事や維持を担っている。

多摩川合流部周辺については、多摩川の計画堤防高（TP16.36m）に対して、平瀬川は昭和49年から57年の整備により、時間雨量90ミリ相当※の降雨に対応できる河道整備（堤防実測値：TP13.23m）が完成している。

※上流域で現在施工中である五反田川放水路事業等の完成後



平瀬川(多摩川合流部周辺)写真



平瀬川(多摩川合流部周辺)平面図

##### イ. 中長期対策の方向性

令和元年東日本台風では、多摩川において計画高水位を超える状況の中、平瀬川（多摩川との合流部）においても水位が上昇し、平瀬川の堤防等から越水したことを踏まえ、**多摩川との合流部における平瀬川の堤防嵩上げ等の機能強化**などについて、国及び県、川崎市が連携して対策の検討・調整を行っていく。

##### ウ. 現在の進捗状況

- ・ 東久地橋桁下の対策に関しては、大型土のうの設置が完了している。
- ・ 平瀬川の堤防嵩上げ等の機能強化に関しては、神奈川県と連携し、国土交通省京浜河川事務所及び関東地方整備局河川部と合流点処理について協議を行っている。

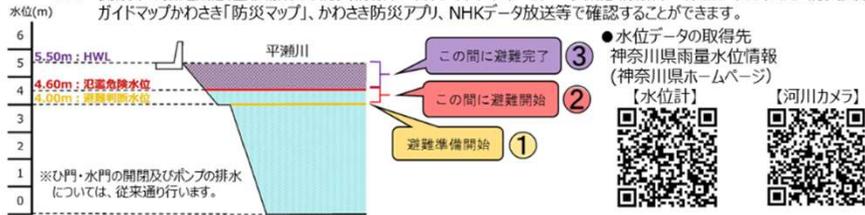
### 3. 平瀬川（多摩川合流部周辺）

#### (4) ソフト対策

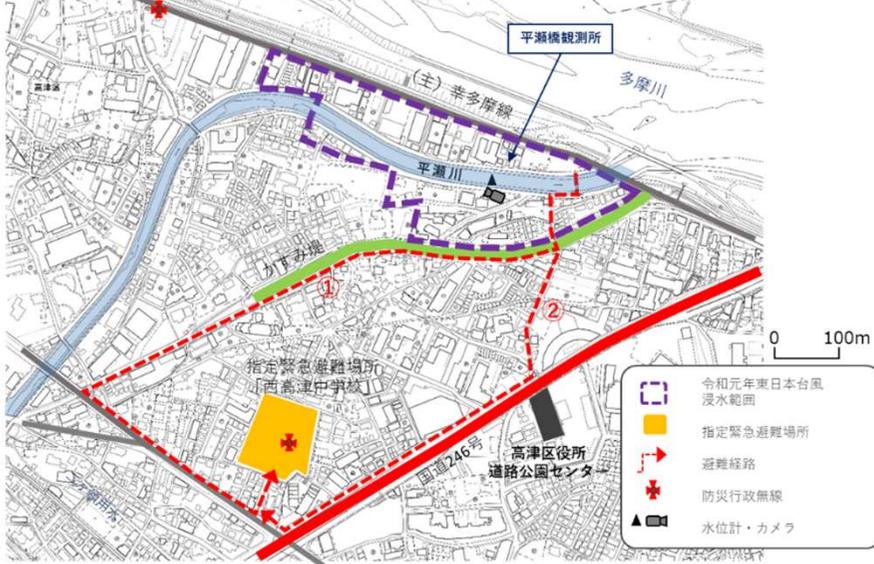
#### 平瀬川最下流部における避難行動のタイムライン（洪水）【案】

【判断の目安の水位】 （水位：平瀬橋観測所）	【発信する情報】（※1）	【警戒レベル】	【住民がとるべき行動】
水位 4.60m 【氾濫危険水位】 ～5.50m 【計画高水位:HWL】	避難指示（緊急）	レベル4	③ この間に避難完了 ・避難中の住民は、確実に避難を直ちに完了 ・避難行動に余裕がない場合は、屋内の安全な場所等に退避するなど、生命を守る最低限の行動を完了
水位 4.00m 【避難判断水位】 ～4.60m 【氾濫危険水位】	避難勧告		② この間に避難開始 ・指定緊急避難場所等（※2）の安全な場所への立ち退き避難開始 ・屋内の安全な場所への避難開始
水位 4.00m 【避難判断水位】	避難準備 高齢者等の避難開始	レベル3	① 避難準備の開始・高齢者等の避難開始 ・高齢者等の避難行動に時間がかかる方は、避難行動を開始 ・高齢者等の方が避難の際は、近隣の方々と声をかけあい協力しながら避難 ・それ以外の住民は、避難準備を開始

- ※1 避難勧告等の発令は、防災行政無線や広報車両による広報等により伝達されます。  
河川の水位が上記水位に達していても避難勧告等が発令される場合がありますので、早めの避難行動を心掛けてください。
- ※2 開設中の指定緊急避難場所は、防災情報ポータルサイト、市ホームページ緊急情報、メールニュースかわさき「防災気象情報」、ガイドマップかわさき「防災マップ」、かわさき防災アプリ、NHKデータ放送等で確認することができます。



#### ●平瀬川最下流部における指定緊急避難場所



## 台風や大雨に備えて

台風や大雨などの風水害は、天気予報などで事前に情報を得て、早めの行動ができる災害です。大切な命を守るために、できることから始めてみませんか。



### 1 災害リスクを確認する

ハザードマップは、洪水による浸水や崖崩れなどの災害が起きる可能性がある場所を示した地図です。自宅で安全が確保できるときは、自宅に留まることも避難の方法です。まずは、ハザードマップで自宅のリスクを確認しておきましょう。



### 2 避難先や、避難行動を事前に考えておく

台風予報などの情報を知ってから、災害が来るまでの時間をうまく活用することが大切です。いつ、どこに、どうやって避難するかを事前に考えて、いざという時に備えましょう。詳細については、「備える。かわさき」をご覧ください。



※ハザードマップや「備える。かわさき」・「号外！備える。かわさき」は、市危機管理室や各区危機管理担当の窓口で配布しています。

### 3 情報の入手先の確認

情報の入手先について、日頃から確認をすることが大切です。

- ・川崎市ホームページ／川崎市防災気象情報  
河川の水位情報のほか、気象レーダーやピンポイント天気予報、降水短時間予測などの情報をホームページで公開しています。
- ・メールニュースかわさき  
登録したメールアドレスに川崎市の防災、気象、災害の情報を配信します。配信を希望する方は、下記アドレスまで空メールを送信してください。（パソコン・スマートフォンから [mailnews-m@k-mail.city.kawasaki.jp](mailto:mailnews-m@k-mail.city.kawasaki.jp)）
- ・防災テレホンサービス  
防災行政無線の放送内容は、電話でも聞くことができます。  
◇県内の一般加入電話、公衆電話及び一部IP電話 0120-910-174（通話料なし）  
◇携帯電話、PHS、県外の一般加入電話・公衆電話 044-245-8870（通話料あり）



#### 災害時の連絡先

- 指定緊急避難場所に関すること・・・高津区役所危機管理担当 Tel. 044-861-3146  
道路、水路、河川に関すること・・・高津区役所道路公園センター Tel. 044-833-1221  
救助が必要などときは・・・高津消防署 Tel. 044-811-0119

### 3. 平瀬川（多摩川合流部周辺）

#### (4) ソフト対策

#### 平瀬川最下流部における避難行動のタイムライン（洪水）解説【案】

##### 1. 平瀬川最下流部への避難情報の発信

平瀬川最下流部に住まいの皆様へ、平瀬川の水位に着目した避難に関する情報発信を行います。避難に関する情報を受けたら、適切な避難行動を取れるようにしましょう。

※既に多摩川の水位で避難勧告等が発令されている場合は、平瀬川最下流部への避難に関する情報を待たず、適切な避難行動を取るようにしましょう。

##### 2. 平瀬川最下流部の水位計・カメラ

平瀬川最下流部では、平瀬橋に水位計及び河川監視カメラが設置されています。台風等の大雨で平瀬川の水位が上昇すると、浸水被害が発生する可能性があるため、水位計や河川監視カメラで、平瀬川の水位の状況に注意しましょう。

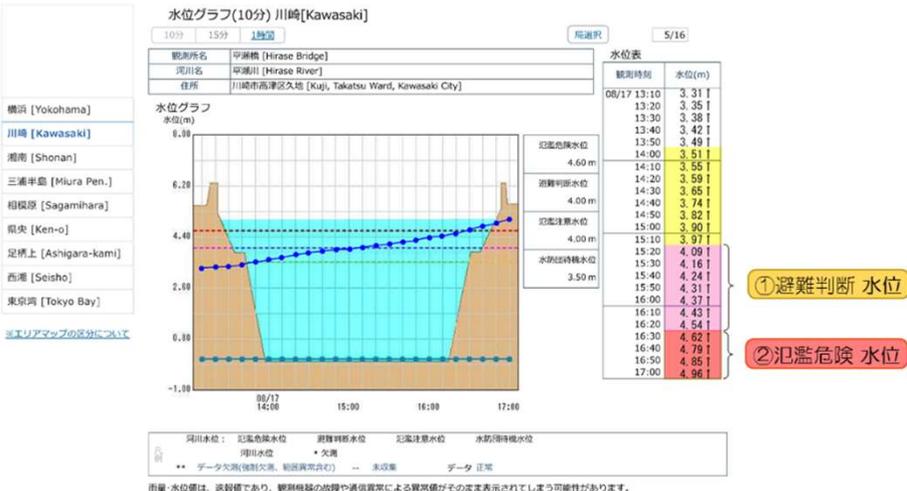


●水位データの取得先  
神奈川県雨量水位情報  
(神奈川県ホームページ)



神奈川県雨量水位情報 ※神奈川県ホームページ（水位）

観測時刻 2020/08/17 17:00



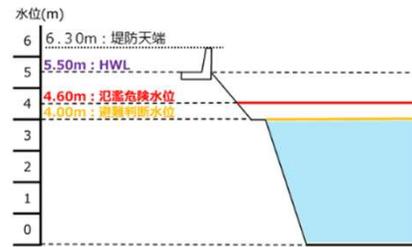
##### 3. 発信する情報

平瀬川の水位に応じて、様々な手段で避難に関する情報を発信します。

※必要な時間（目安）は、令和元年東日本台風時における1時間あたりの最大水位上昇量による想定であり、発生する事象によって異なります。

##### ①避難判断 水位

平瀬川の水位が避難判断水位（4.00m）に達したら、避難準備を開始していただくための情報を発信します。令和元年東日本台風時の平瀬川の最大水位上昇量（0.68m/h）で計算すると、約50分で避難の準備を行う必要があります。

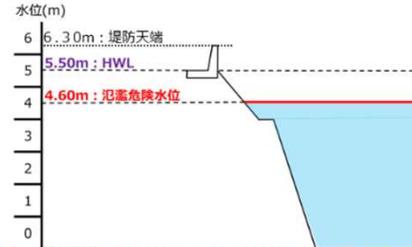


避難準備に必要な時間  
=50分（目安）

- 情報の入手方法
- HPの水位計及びカメラで状況確認
  - メールニュースかわさき受信
  - 広報車等による広報
  - 防災行政無線
- 住民が取るべき行動
- 避難に時間がかかる人は避難開始
  - その他の人は、避難準備（家財・車などの避難）

##### ②氾濫危険 水位

平瀬川の水位が4.00m～4.60mの間に、避難を開始していただくための情報を発信します。令和元年東日本台風時の平瀬川の最大水位上昇量（0.68m/h）で計算すると、約80分で避難を行う必要があります。

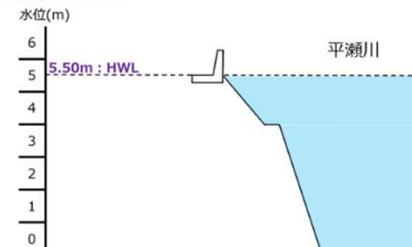


避難に必要な時間  
=80分（目安）

- 情報の入手方法
- HPの水位計及びカメラで状況確認
  - メールニュースかわさき受信
  - 広報車等による広報
  - 防災行政無線
- 住民が取るべき行動
- 避難開始

##### ③計画高水位（H.W.L.）

平瀬川の水位が5.50mに達すると、浸水被害が発生する可能性が非常に高くなります。この水位までには避難を完了し、万が一まだ避難されていない方は建物の上階等に退避し、生命を守る行動を取る必要があります。



- 情報の入手方法
- HPの水位計及びカメラで状況確認
  - メールニュースかわさき受信
  - 広報車等による広報
  - 防災行政無線
- 住民が取るべき行動
- 避難完了

### 3. 平瀬川（多摩川合流部周辺）

#### (5) 対策とスケジュール

・ 検証により明らかになった課題に対して、以下のスケジュールで対策を実施している。

対策	対策時期	対策内容	対策実施者	令和元年度	令和2年度												令和3年度	
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
平瀬川	ア. フラップゲートの設置	短期	フラップゲート設置（市管理分）	川崎市	完了													
	イ. 大型土のう等の設置	短期	大型土のう設置	国						完了								
		中期	中期対策検討	国														
	ウ. バラベツト護岸の改良	短期	仮設板設置	川崎市						完了								
		短期	アクリル板設置	川崎市														
	エ. 水位計、カメラの設置	短期	既存水位計の更新	川崎市	完了													
		短期	水位計及びカメラの設置	川崎市														
		中期	カメラの夜間対応など更新	神奈川県														
	オ. 被害最小化	短期	移動式ポンプ配備	川崎市	完了													
		短期	移動式ポンプ増設	川崎市	完了													
短期		土のうステーション設置	川崎市						完了									
カ. 中長期対策	中長期	平瀬川（多摩川合流部周辺）の対策検討・調整	川崎市															
共通	カ. ソフト対策	短期	タイムライン（防災行動計画）の確立と防災意識向上の取組	川崎市														
		中長期	地域防災力向上検討	川崎市														